

Mシリーズクイックスタートガイド

インストール

exacqVision Mシリーズサーバーの電源を入れる前に、以下の要件を満たしていることを確認してください。

設置および動作環境要件

- exacqVision サーバーは埃がなく、温度が 70° F 未満で、湿度が 40% 未満の結露のない、温度と湿度が調整された場所に設置してください。
注記：埃は、サーバーの構成機器が過熱する原因になることがあります。高温はハードドライブの早すぎる故障の一因になり得ます。
- 屋外カメラを使用している場合、サーバーは接地線に常時接続しておく必要があります。必ず、18AWG 以上のケーブルを使用して接続し、図 1 の画像を付けたラベルを電源コネクタの近くにある接地ネジに付けてください。
- すべての屋外カメラには、カメラとレコーダーの間に適したサージ抑制器が付いている必要があります。

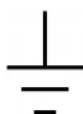


図 1 接地線

電気的環境要件

- 最大の信頼性を得るために、exacqVision サーバーをオンライン UPS に接続します。オンライン UPS は、サーバーに損傷を与える可能性のある電力サージおよび低下をフィルター処理します。
- exacqVision サーバーの WAN インターフェースを会社のネットワークまたはインターネットアクセスを備えたネットワークに接続します。
- マウスをサーバーに接続します。キーボードを接続することもできます。ただし、デスクトップ上に仮想キーボードがあります。

Mシリーズサーバーを構成する前に、デフォルトのユーザーアカウントと管理アカウントのパスワードを変更する必要があります。

ネットワーク構成

デフォルトで、LAN および WAN インターフェースが DHCP サービスにより構成されます。これらのいずれかのインターフェースの静的 IP を設定するには、[システムの構成] ウィンドウで [ネットワーク] タブを開きます。[システムの構成] ウィンドウの [ネットワーク] タブの詳細については、表 1 または『exacqVision User Manual』を参照してください。

インターフェース要素	説明
[IP 再接続] ペイン	デフォルトの IP 再接続時間は 300 秒です。IP カメラをネットワークから切断する場合に、IP 再接続時間を低く設定していると、再接続速度を上げることができます。
[個々の PoE アダプターを表示] チェックボックス	すべての PoE ポートを表示するには、[個々の PoE アダプターを表示] チェックボックスを選択します。
[インターフェース] リスト	LAN、WAN、または PoE ポートを構成するには、[インターフェース] リストから選択します。
[すべてを構成] リスト	構成に利用可能なすべての IP 範囲を表示します。WAN または LAN インターフェースで、[すべてを構成] リスト内に IP サブネットと競合する IP アドレスがある場合、その IP アドレスは表示されず、PoE ポートに割り当てられません。
[IP 構成] 領域	デフォルトの種類は [動的] です。システムが構成されていない場合は、各自のネットワーク管理者に連絡してください。LAN および WAN インターフェースについて、IP アドレスとネットマスクが分かっている場合は [静的] を選択します。
[DHCP サーバーを有効にする] チェックボックス	すべての PoE インターフェースでは、接続するカメラを構成するために、デフォルトで DHCP が有効になっています。すべての PoE インターフェースの IP アドレスは、数字の 1 で終わります。すべての PoE インターフェースでは、数字の 2 で終わる IP アドレスを使用して、DHCP 対応のカメラを構成しようとします。

表 1 [システムの構成] ウィンドウの [ネットワーク] タブ

リモートクライアント接続

リモートクライアントマシンを使用して Mシリーズサーバーを構成している場合、「Mシリーズサーバーのリモートでの構成」を参照してください。Mシリーズシステム上で Mシリーズサーバーを構成している場合、「カメラ接続」を参照してください。

Mシリーズサーバーのリモートでの構成

Mシリーズサーバーをリモートで構成するには、以下の手順を実行します。

- 以下のリンクを使用して、リモートシステム上にクライアントアプリケーションソフトウェアの最新バージョンをダウンロードし、インストールします。<https://exacq.com/support/downloads.php>
- exacqVision クライアントアプリケーションを起動します。
- [構成 (セットアップ)] アイコンをクリックし、[構成] ウィンドウを開きます。
- ナビゲーションツリーから [システムの追加] を選択します。
- [新規] をクリックし、exacqVision Mシリーズサーバーの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- 以下のユーザー名とパスワードを入力します。

ユーザー名 : admin

パスワード : admin256

- サーバーがリストに表示されており、[接続済み] という状態になっていることを確認します。

注記：サーバーが接続していないのに、そのサーバーの接続が確認されている場合、リモートクライアントマシンのウイルス対策ソフトウェアがサーバーの IP アドレスとポートとの通信をブロックしている可能性を確認してください。

- デフォルトのオペレーティングシステム管理およびユーザーアカウントを変更します。詳細については、『exacqVision User Manual』を参照してください。

カメラ接続

EasyConnect 機能は、大部分の DHCP カメラを自動的に検出し、構成します。カメラをシステムに接続するには、以下の手順を実行します。

- カメラが工場出荷時のデフォルト状態であることを確認します。
- ナビゲーションツリーから、[システムの構成] を展開し、[PoE ポート] を選択します。
- サーバーの後面パネルで、カメラを PoE ポートに差し込みます。
- [PoE ポート] ウィンドウを監視し、カメラが構成され、接続されていることを確認します。接続には最大で 6 分かかります。ポートの接続状態の詳細については、表 2 を参照してください。

注記：ポートの番号付けパターンは、exacqVision LCUna システムとは異なります。

ポートの状態	説明
	カメラが接続されていません。
	カメラが検出されています。ポートスキャンが行われています。
	カメラが接続され、ストリーミングされています。
	カメラは、ストリーミングされていないか、ユーザー名またはパスワードが無効であるか、あるいはさらなる構成を必要としています。

表 2 ポートの状態

Mシリーズクイックスタートガイド

カメラの接続のトラブルシューティング

EasyConnect カメラがシステムに正常に接続されたら、[PoE ポート] ウィンドウの状態列に [接続済み] と表示されます。[接続済み] が表示されない場合、以下のトラブルシューティングガイドラインを利用してください。トラブルシューティングでは、接続に失敗したカメラの削除と再接続が必要になる場合があります。カメラを削除し、再接続するには、以下の手順を実行します。

1. [IPカメラの追加] ウィンドウを開きます。
2. 削除するカメラを選択し、[削除] をクリックします。
3. [ネットワークの再スキャン] をクリックしてカメラを再接続します。

無効なユーザー名またはパスワード、あるいは手動介入が必要

[無効なユーザー名またはパスワード] 状態または [手動介入が必要] 状態の場合、以下の手順を実行します。

1. 状態メッセージの上にポインタを置き、問題の解決方法に関するツールチップメッセージを表示します。
2. カメラ上で [出荷時の設定にリセット] ボタンを押して、カメラをデフォルトの設定にリセットします。
3. [IPカメラの追加] ウィンドウを開き、カメラに関する正しい情報を入力します。詳細については、『*exacqVision User Manual*』を参照してください。
4. 内蔵ブラウザに接続し、カメラを構成します。詳細については、「**内蔵ブラウザへのカメラの接続**」を参照してください。
注記: 内蔵ブラウザには、サポートできるカメラ接続の数に制限があります。カメラに接続し、構成するために、Firefox、Chrome、Internet Explorer などの別のシステムが必要になることがあります。

内蔵ブラウザへのカメラの接続

カメラを内蔵ブラウザに接続するには、以下の手順を実行します。

1. [ホーム] ページの左上隅にある [監視] アイコンをクリックし、[実行] を選択します。
2. surf およびカメラの IP アドレスを入力します。
3. [OK] をクリックします。
4. 以下のオプションを 1 つ以上選択します。
 - カメラをそのデフォルト設定にリセットします。
 - カメラの情報が正しいことを確認します。
5. カメラの電源を一度切って、また入れ直し、[IPカメラの追加] ウィンドウ上の [ネットワークの再スキャン] をクリックします。

カメラの IP アドレスの PoE ポートの一時的変更

カメラの IP アドレスが間違えて入力されており、ネットワークビデオレコーダー (NVR) と同じサブネット上にない場合、PoE ポートの IP アドレスを内蔵ブラウザに接続するように一時的に変更できます。PoE ポートを一時的に変更するには、以下の手順を実行します。

1. [システムの構成] ウィンドウで、[ネットワーク] タブを選択します。
2. [個々の PoE アダプターを表示] チェックボックスを選択します。
3. 変更する PoE ポートを選択します。
4. [ネットワーク構成] 領域で、カメラの IP アドレスの最後の数値に 1 を追加することにより、新しい IP アドレスを入力します。例:

カメラの IP アドレス: 192.168.1.20

新しい IP アドレス: 192.168.1.21

5. [適用] をクリックします。

注意: LAN または WAN IP 設定と衝突する PoE ポートは設定しないでください。

6. 内蔵ブラウザに接続し、カメラを構成します。詳細については、「**内蔵ブラウザへのカメラの接続**」を参照してください。
7. カメラを構成した後で、PoE ポートを元の IP アドレスに戻します。

カメラ未検出状態

[カメラ未検出] 状態が表示された場合、以下の手順を実行します。

1. サポートされているカメラのリストにそのカメラがあることを確認します。サポートされているカメラのリストには、<https://exacq.com/integration/ipcams> からアクセスできます。
2. カメラのプラグを抜き、再びプラグを差し込みます。
3. [IPカメラの追加] ウィンドウを開き、[ネットワークの再スキャン] をクリックします。

接続

M シリーズサーバーの背面パネルの接続の詳細については、図 2 および表 3 を参照してください。

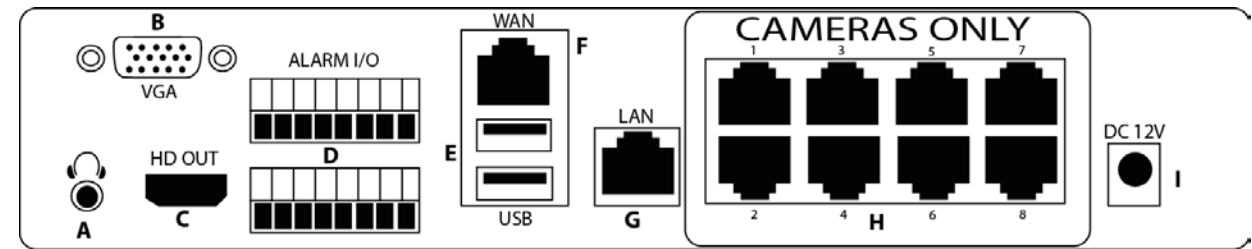


図 2.M シリーズサーバーの背面パネル

名前	説明	
A	音声出力	
B	VGA ビデオポート	M シリーズ NVR は音声出力ポートをサポートしていません。VGA ビデオポートは HDMI ポートと同じ出力を提供します。このポートは、2 つ目のモニターを接続するために使用することはできません。
C	HDMI ビデオポート	このポートは、2 つ目のモニターを接続するために使用することはできません。
D	アラーム IO および RS485	アラーム IO および RS485 接続の詳細については、表 4 および図 3 を参照してください。
E	USB 3.0 ポート	USB ポートを使用して互換性のあるキーボード、マウス、または USB メモリデバイスを接続します。
F	10/100/1000 イーサネット	このポートは、インターネット接続および受信クライアント接続を備えた主ネットワーク用です。また、PoE に接続されたカメラの代わりに、補助カメラの接続に使用できます。接続できるカメラの最大数は、カメラのモデルとシステムライセンスに応じて 4 台または 8 台になります。
G	10/100/1000 イーサネット	このポートは、PoE に接続されたカメラの代わりに、補助カメラの接続に使用できます。接続できるカメラの最大数は、カメラのモデルとシステムライセンスに応じて 4 台または 8 台になります。
H	10/100 PoE カメラポート	これらのポートは IP カメラ用の DHCP ポートをサポートします。各ポートはオペレーティングシステムに対する VLAN で、4 ポートモデルの場合は合計で 30 ワット、8 ポートモデルの場合は合計で 60 ワット。スイッチ、ルーター、コンピューター、プリンターなどの他のデバイスをカメラ用 PoE ポートに接続しないでください。
I	電力供給	DC 12V 電源。

表 3.M シリーズサーバーの背面パネル

番号	説明	番号	説明
1	アラーム入力 1	9	通常閉じています
2	アラーム入力 2	10	共通
3	アラーム入力 3	11	通常開いています
4	アラーム入力 4	12	接地
5	アラーム入力 5	13	RS485 D+
6	アラーム入力 6	14	RS485 D-
7	アラーム入力 7	15	接地
8	アラーム入力 8	16	接地

表 4.アラーム IO および RS485

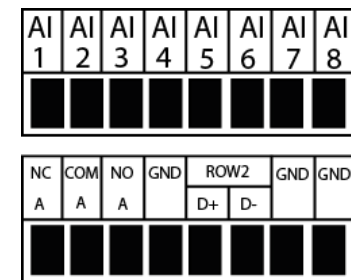


図 3.アラーム IO および RS485